

	課題分析	授業改善策
国語	授業アンケートで以下の3点が課題として考えられる。 ①漢字の定着率が低い。 「小テストだけでは覚えられない」という生徒が多い。 ②記述・抽出スキルの不足 問題の解き方や何を書いたら良いのか分からないといった情報を整理し言語化することが苦手な生徒がいる。 ③文法事項（文節・単語）の混乱 文節分けや単語分けなどの文法知識において、苦手意識が強く見られる。	①帯学習として漢字を継続していくが、小テストの回数が多い現状があるので、テストは精選しながら反復回数を増やしていく。 ②「文中から書き抜く」などテスト同様の発問を授業でも多く取り入れ、「答え方」まで注意できるようにする。 自分の意見を書く場面では、問題と正対させるためのキーワードやポイントを事前に提示し、「何を書くべきか」という思考の枠組みを支援する。 ③視覚的に区切りが分かるような教材を活用し、反復練習を行う。
社会	【歴史】 授業アンケートからは、授業の内容は理解できていても、その知識の定着に不安を感じている生徒が一定数いることが把握できる。また、授業中の生徒観察からは、史資料の読み取りや自分の考えを表現することが苦手と感じている生徒も一定数存在すると推察される。 【地理】 授業アンケートの結果から、授業の内容をあまり理解できていないと感じている生徒が多いことがわかる。その原因として、次の3点が考えられる。 ①地理分野の最初の単元では、緯度・経度といった空間認識能力を必要とする学習内容が多い。 ②知識を覚えることよりも、資料やデータの読み取り方を学ぶ学習に慣れていない生徒が多い。 ③世界の国名や国旗などへの興味関心が高く、知識も豊富な生徒が一定数いるので、そうした地理を得意とする生徒との知識量のギャップを感じている生徒がいる。	【歴史】 授業内で行っている、史資料の読み取りや発問に対して根拠を明示しつつ自分の考えを表現する活動を継続して行う。また、毎回の発問時にポイントとなる点を伝えたり、生徒同士で共有する時間を確保したりして、自分の考えを書くことや授業参加へのハードルを下げる指導を行う。 【地理】 ①②の課題について、生徒の理解度が低くなる傾向の学習内容については、授業で繰り返し取り上げることで、生徒の理解度を高めたり、机間指導をしながら形成的評価を積極的に行うことで、生徒の自己肯定感を高めたりするよう努める。また、②③の課題について、地理を得意と感じている生徒の興味関心を維持するとともに、単に知識の暗記だけでなく、資料やデータの読み取りと活用能力を育てる学習を充実させる。
数学	①基礎的・基本的な「知識・技能」の習得について課題であると感じている生徒が多い。 ②「数学的な見方や考え方」を伸ばす指導の工夫が必要である。 ③自主学習の教材については取り組むことができるが、積極的な反復練習や理解までには至っていない生徒が多い。	①机間指導に加えて、小テストや定期考査を通じて、生徒のつまずきを発見し、助言や指導、授業で扱う問題の検討を行う。 ②習熟度に応じて、発展的内容を取り入れる。1つの課題を深く検討する時間を設けるだけでなく、類題等にも触れる中で思考力・判断力・表現力を伸ばす工夫をする。 ③自主学習にどのように取り組めばよいのかを指導し、適宜振り返りをする機会をつくる。また、反復練習することを促していく。
理科	授業アンケートでは、「とてもよく理解できている」「理解できている」と回答した生徒が90%あり、内容理解はほぼ達成している。また、気体の集め方などの実験の操作技術も向上している。その一方で、定期考査などのテストの結果では、思考・判断・表現の観点の平均点が低く、知識を利用して自分で考える力に課題が見られる。	授業の形式は、これまでと同様に行うが、1学期よりも「考える」ことに時間を使っていく。学習内容と身の回りでみられる自然現象を関連付け、科学的に考える力を養うとともに、思考力を問う問題をより多く出題する。また、観察実験では、レポートの「考察」をこれまで以上に考察を重視して指導を行う。
音楽	授業アンケートでは、理解できている生徒が96.2%だった。得意な内容は、歌やリコーダーの実技に関すること、苦手な内容は音やリズムの読み方、記号の名前や意味など、楽譜の読み取りに関することが多かった。ただ、苦手な内容にも発声や音がうまく取れないなど実技に関するものもあった。思考・判断・表現を考えるのに必要な楽譜の読み取り（知識）が苦手であることが課題である。	①楽譜にある記号や音の読み方などを頻繁に取り上げ、繰り返し学習することや、集中的に記号を覚える時間を作る。 ②合唱コンクールなどで、生徒同士の教えあう活動を増やし、声の出し方や記号の理解について、苦手を少なくしていくようにする。
美術	授業アンケートでは、「とてもよく理解できている」「理解できている」と回答した生徒が合わせて92.4%であり、多くの生徒が授業内容を理解している。一方、記述回答では、レタリングや着彩、粘土などを得意とする生徒がいる反面、同じ内容を苦手とする生徒も見られ、技能面での個人差が大きい。特に、色の混ぜ方やむらのない着彩、文字の形を整えること、陰影の表現、粘土の性質などの理解に難しさを感じている生徒がいる。また、自分でアイデアを考えたり、自分の考えを表現したりすることに苦手意識をもつ生徒も見られる。	①着彩やレタリング、粘土などの基本的な技能について、教師による実演や制作途中の見本、手順を視覚的に提示し、必要に応じて短時間の練習を取り入れる。 ②色の混ぜ方や用具・材料の性質、美術用語について、制作活動と関連付けながら繰り返し確認し、知識と技能の定着を図る。 ③アイデアを考える場面では、参考作品や発想の手掛かりを複数提示し、一人一人が自分なりの表現を選択できるような支援する。また、制作途中での鑑賞や個別の声掛けを行い、良さや工夫を具体的に認めながら、自信をもって制作に取り組めるようにする。
保健体育	①運動が好きな生徒が多く意欲的に取り組むことができる一方で、運動の技能が高まっていない生徒が多い。 ②板書や学習ノート、教員からのアドバイスなどから知識を理解し、それらを活用しながら工夫する力が不足している。 ③教員からの指示を聞くこと、理解することを苦手とする生徒が非常に多い。	①小学校からの学習の系統性を大切にし、スモールステップで「できた」を味わうことができる授業を行っていく。 ②ユニバーサルデザインを取り入れ、必要な情報がスムーズに伝わる教材や板書を意識的に行っていく。 ③集団指導・個別指導に限らず、話を聞く準備を整える時間をしっかりととり、「聞く力」の育成に力を入れていく。

技術・家庭	①意欲的に学ぼうとする姿勢がよく見られる。 ②小学校での経験や他教科での既習事項を活用して取り組もうとしている。 ③知識的な分野の定着に差が見られる。 ④学習内容を自分の生活や将来と関連付けて、学びを深めたり広げたりしようとする意識に課題が見られる。	①ICTを活用し、資料や作業の進め方の例を提示して目標達成までをイメージさせ、理解を深める支援をする。また、繰り返し粘り強く取り組める声かけや時間設定を工夫する。 ②生徒用タブレットPCを利用し、主体的に取り組むための興味関心をより高め、学習内容に見通しをもたせて理解を深める。 ③導入やまとめに、実生活での実用例を挙げ、生活とつながる場面を想定できる工夫を入れる。 ④地域の特色を生かした具体的な課題を設定し、個人やグループで調べ、話し合い、発表する。
外国語（英語）	授業アンケートにおいて、単語や文法が苦手という回答が見られた。基礎的な語彙や表現の定着が不十分なため、授業全体の流れや活動内容を正確に把握できていない生徒が一定数存在する。また、分からない表現に出会っても推測しようとする態度の育成が必要である。	ペアワークを多く取り入れ、分からない単語や指示について生徒同士が教え合い、補い合える環境を作る。歌や対話活動を行ったり、教科書を繰り返し学習したりすることで、積み重ねを実感できるようにする。また、単語テストを長期休業の課題とし、集中的な学習を促す。